

# 研究に関する情報公開文書

下記研究は、名古屋市総合リハビリテーション事業団附属病院倫理審査委員会の承諾を得て、研究責任者の下で行われています。すでに実施済みの拡散テンソル画像を下に行われるため、対象となる患者さんに新たなご負担はおかけいたしません。また、研究結果は学会や学術雑誌などに発表されることがありますが、患者さんのプライバシーは十分に尊重され、個人情報（お名前など）が外部に公表されることはありません。ご自身の検査情報が、この研究に使用されることに同意されない方は、下記の連絡先までご連絡いただければ、研究対象から除外させていただきます。研究へのご協力についてはいつでも拒否または撤回をすることができます。なお、同意されない場合でも、診療上不利益を被ることはありません。また、本研究に関して詳しい説明を希望される場合も、下記の連絡先にお問い合わせいただきますようお願い致します。

## 研究課題

重回帰分析を用いた、回復期脳卒中者の下肢運動麻痺予後予測指標の作成

## 研究責任者

名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 第1リハビリテーション部 理学療法科  
理学療法士 伊藤 寛之

## 研究組織

名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 第1リハビリテーション部 理学療法科  
理学療法士

石黒 正樹 宇井 瑞希 中川 有花 清水 隆司 向田 悦子 識名 満希子 岡元 信弥  
戸田 海渉 生田 旭洋 鈴木 美紗 若泉 賢也 角 友華 阿部 圭佑 松尾 麻友  
石川 梢子

附属病院長 日比野 敬明

第1脳神経内科部長 稲垣 亜紀

第1脳神経内科副部長 阿南 知世

第2神経内科部長 堀本 佳彦

放射線診断部長 飯田 昭彦

企画研究局 企画研究局長 田島 稔久

脳神経内科医 佐藤 千香子 鈴木 鮎子

放射線診断部 放射線診断科 放射線技師 後藤 啓介

企画研究局 企画研究室室長 日比野 新

## 研究期間

2022年12月23日～2024年3月31日（予定）

## 対象者

対象は、2022年1月～2024年3月に当院で拡散テンソル画像を撮像した患者さんです。

## 利用する情報

- ・基本情報（年齢・性別・疾患名・発症から入院までの期間・入院日数・視覚障害の有無・高次脳機能障害の有

無)を含む

- ・ Fugl-Meyer Assessment 上肢項目、Fugl-Meyer Assessment 下肢項目
- ・ Functional Independence Measure の総得点
- ・ 画像データ (3DT1、FA、B0 画像) から算出された Fractional anisotropy

#### 情報の管理

当事業団の個人情報の保護に関する規定に従って管理を行います。

「事業団個人情報の保護に関する規定」

[http://www.nagoya-rehab.or.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/000/842/20180116-110553-8806.pdf](http://www.nagoya-rehab.or.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/000/842/20180116-110553-8806.pdf)

#### 研究目的

脳卒中発症後に生じる歩行障害は、脳卒中者の理学療法において重要な課題です。歩行障害に関連する代表的な因子として下肢運動機能が挙げられますが、下肢運動機能には運動麻痺の重症度が密接に関与するため、運動麻痺の重症度の予後を予測することは非常に重要です。運動麻痺の機能予後を予測する方法として、近年拡散テンソル画像が用いられており、脳卒中者では皮質脊髄路内の代表的な拡散異方性指標である Fractional anisotropy が低いほど運動機能の予後が悪いとされています。本研究の目的は回復期脳卒中者のうち、中等度から重度の患者に対して療法士が評価する神経学的評価と拡散テンソル画像による評価を組み合わせた下肢運動麻痺予後予測指標を作成することです。これにより作成した予測指標は、移動能力の予測や装具の選択などの治療方針を決定する手段のひとつとなりうる可能性があります。

#### 研究方法

##### 1. データの取得方法

- ①倫理審査委員会での承認とオプトアウト形式による研究同意を得ます。
- ②以下の患者データを電子カルテと画像サーバーから取得します。

〈取得する患者データ〉

- ・ 基本情報 (年齢・性別・疾患名・発症から入院までの期間・入院日数・視覚障害の有無・高次脳機能障害の有無)
- ・ Fugl-Meyer Assessment 上肢項目、Fugl-Meyer Assessment 下肢項目
- ・ Functional Independence Measure の総得点
- ・ 画像データ (3DT1、FA、B0 画像) から算出された Fractional anisotropy

##### 2. 分析方法

上記項目について、神経学的評価と拡散テンソル画像データを用いて予後予測指標を作成します。

#### 本研究に関する連絡先

名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 第1リハビリテーション部 理学療法科

伊藤 寛之

愛知県名古屋市瑞穂区弥富町密柑山 1-2

TEL : 052-835-3811 (内線 762 理学療法科)